

JISA 「AI 共生宣言」

私たちの存在意義 (Purpose)

私たち情報サービス産業は、人の尊厳を第一義とし、人間の能力を極限まで開放し価値創造・課題解決に挑む社会を創るべく、「社会のデジタルアーキテクト」として AI ネイティブな社会構造、特に AI との「共生」を社会各層との対話を通じて構想し、責任をもって実現する。

私たちの価値 (Value)

1. 人の安心と社会の安全を築く「意志と倫理」

社会の基盤として人と AI の共生（自律性をもつ AI が人間の能力を極限まで高め、人間が AI の開発と運用に意図と規範を与える相互補完的な協働関係）を構築する。その際、AI を妄信するのではなく、AI の社会的利活用が人の尊厳や安心を損なわないよう AI を正しく導いた上で、人の安心と社会の安全を確立するのが、私たちの強い「意志と倫理」である。

2. 社会を AI ネイティブへと導く「プロフェッショナルとしての真摯さ」

私たちは、長年、社会基盤を支えてきた深い現場の理解と業務知識、そして技術実装力で、社会の AI ネイティブ化をリードし、実現する。単なる技術の提供者や受託者に留まるのではなく、困難を厭わず、新たな価値の実現にコミットする「プロフェッショナルとしての真摯さ」こそが、社会のデジタルアーキテクトとしての矜持であり、価値創造の源泉である。

3. 自らをアップデートし続ける「イノベーション・マインド」

私たちは、変化を恐れず、挑戦を繰り返し、自らをアップデートし続ける。失敗や不確実性を単に「回避すべきリスク」とするのではなく、次なる価値を生むための「自己成長の源泉」として活かす。この自律的な「イノベーション・マインド」こそが、予測不能な時代を切り拓き、価値を実現していく私たちのエンジンである。

私たちの行動指針 (Principles)

【社会に対しての責任】

1. 人間の意志と倫理観をすべてのよりどころとする

人間が従来果たしていた役割は次第に AI に置き換わり、人間と AI の共同作業になっていくが、人間が最終的な判断と責任を引き受ける。人間の尊厳や安心を絶対に損なわないという確固たる意志と高い倫理観をもって人間が主体となる社会設計を堅持する。

2. 技術の使い方より、技術による価値創造を追求する

技術の利用 (“Knowledge to Use”) に習熟するだけでなく、それを価値創造 (“Knowledge to Value”) へと昇華させ、実現すべき価値を重視する。

3. 変革に共に挑み、成果で応える

困難を厭わず、個人を含む社会各層と共に変革を推進し、具体的な成果で価値を証明する。

4. 成果に対して徹底した責任感を持つ

私たちの成果はすべて社会のインフラに帰結する。事業の社会的重要性を認識し、成果が人の安心と社会の安定に直結する自覚を持ち、事業に関わる社会的リスクを回避すべく可能な限りの予測・検証を尽くす。

【実践のプロセス】

5. 人の感情に触れる価値を追求する

創造する価値は効率だけでは測れない。価値の追求に当たっては、尊厳や幸福を希求する人の感情を十分に尊重する。

6. 答えを追求する前に真の課題を探求・発見する

単なる受託を脱し、顧客も AI も気づいていない本質的な課題を現場から掘り起こす。

7. アジャイルな試行と学習で自らをアップデートし続ける

小さく試し、高速に学習と改善を繰り返すことで、不確実な時代に対応するとともに、自らの能力とマインドを更新し続ける。

8. 技術と知恵を分かち合う信頼のエコシステムを育てる

個社の垣根を取り払い、高度な技術知見や変革のプロセスを共有し、切磋琢磨する。多様な社会各層と繋がり、産業間の境界を越えた相乗効果を生み出す。そして情報サービス産業を「知の循環」が絶えないプラットフォームへと進化させる。

【個と組織の成長】

9. 挑戦と失敗による変化と成長を愉しむ

失敗は回避すべきリスクではなく、次なる価値を生むための「成長の源泉」として歓迎すべきである。挑戦と失敗の繰り返しによる変化を、自らの成長機会としてとらえ、その過程を愉しむ。

10. エンジニアの創造的余白と心理的安全性を確保する

AI活用によって創出された時間を、追加案件で消費せず、エンジニアの研鑽とイノベーションへの挑戦に充てる。さらに、挑戦に伴う効率低下や失敗を必要経費とし、挑戦を支える現場の信頼関係と安心感（「心理的安全性」）を保証する。